

なし

発行年	1910
URL	http://hdl.handle.net/10114/446

本年七月下旬丙寅二十八日夕以步地達地營
借之閱已發金糧例取油之價以充之抵
之款了案則所記一通之者以爲存之
於文以爲後之通之者以爲存之

明
 治
 廿
 二
 年
 九
 月
 廿
 日
 初
 本
 紅
 印

初平田部

西務書記官

一、新座ノ代々僧ニ傳テ其ノ一ニ入
以、其慣例多ク新地ニシテ其比ニ
ナリトス

二敷金ハ多ク、古座金、備前工限、上金、
稀ニ耕代地、二葉地等ノ金、備前工限、上金、

內務省

のり
増
のり
り

三敷金ノ有り、其利子ヲ排ハ良慣例也
由、金ノ目的ハ借主ヲシテ苦戦初メ全
カウレトスルニ在ラス

五貨之爲金ヲ以
借債ノ石拂子他
振失ノ

[illegible]

六、借端却之者、未ク其義解ノ希ニシ
了（サトキ）貸主ノ欲トモ知レ
ナリ